



学校便り 12月号

かけはし

薩摩川内市立里小学校 薩摩川内市里町里 1601 TEL 09969-3-2008
発行 令和7年12月16日 責任者 校長 永野 俊也

学校HP



学校ブログ



里周辺海水温
23℃(1131)



おきつぐ **田沼意次** と **松平定信**
つたやじゅうざぶろう
人権旬間に思いめぐらす



校長 永野 俊也

12月に入り、人権旬間を迎えました。そこで今月は、歴史に残る風説とその影響について考え、思いをめぐらせてみたいと思います。

今年のNHK大河ドラマは、江戸のメディア王蔦屋重三郎が主人公ですが、その時代幕政を司ったタイトルにあげた2人の姿も描かれています。ところで、田沼意次といえば、みなさんどのような印象をお持ちでしょうか？ 私の中学校時代（約50年程前）の歴史教科書を紐解くと、次のような一文がありました。「意次はわいろを取ったりしたので、非難された」（日本書籍1974年）

また、当時はTVで時代劇が数多く放映されており、意次と言えばことごとく悪役、定信が正義の味方のように描かれ、そういったイメージも知らず知らず刷り込まれていたように思います。果たして実際はどうだったのでしょうか？ 教科書に載るといことは、歴史事実を記した一次資料の存在を意味します。ただ、近年の研究でその一次資料の発信源は、すべて定信一派でありしかも意次失脚後であるということがわかってきました。つまり、意次失脚後、田沼派を一掃するためのプロパガンダ（特定の意見を広めるために、情報を操作したり感情に訴えたりする意図的活動）であったのではないかということが一般論になりつつあります。ですから昔の時代劇は、風説に基づきポピュラリティに則った創作が行われていたことになりす。

意次は、紀州藩の足軽の身分からわずか二代で家老まで登りつめたため、やっかみから周囲には多くの政敵がいました。ただ身分の低い出であるからこそ、身分にかかわらず多く人と親しく接し、旧態依然の幕臣が思いつかない経済政策（主に重商主義）を、次々打ち出していきます。一方、享保の改革で有名な徳川吉宗の孫にあたる定信は、自分が將軍になる道を田沼一派により閉ざされたため、相当な恨みを持っていたようで、意次失脚後、意次の江戸屋敷や領国の没収、さらに建て間もない意次の城を打ち壊すなど、その仕打ちは苛烈でした。しかし没収した江戸屋敷には「塵一つ残っていません。」と記録にあるように、意次が私腹を肥やした記録は残っていません。吉宗の改革を手本に質素儉約をすすめる定信の寛政の改革（主に重農主義）も、一定の成果を上げるものの多くの反感をかい、將軍家齊との不仲をきっかけに失脚します。二人について言えることは、立場と方針は違うものの傾きかけきた幕府の財政を再建し、幕府を支えるという真摯な姿勢であったように思います。またそのことは意次の領国（現静岡県牧之原市）定信の領国（現福島県白河市）ともに、地元民からは優れた偉人として、当時から現代に至るまで、敬愛の対象となっていることから思われます。

話を様々な情報が渦巻く現代の子供たちの生活環境に移しましょう。現代ではネット環境を中心に様々な風説、さらにはフェイク情報まで流れ、時に人を追い詰め、人としての尊厳や命まで奪ってしまうことも起こっています。また、“再生回数を稼ぎたい”がための思わせぶりのキャッチコピーで中身の薄い情報も氾濫しています。さらに、自分がある考えを持ち情報を検索すると、AIが「この人はこういう考えなんだ」と判断し、それに類する情報をどんどん提示してくるので、本人が気づかぬうちに反対意見が遠のくなど視野が狭くなり、思い込みに陥るリスクも増えているように思います。

情報リテラシー（情報を適切に収集、理解し、それらを有効に活用する能力）の大切さが問われる現代、私たちは子供たちのために、学校、家庭ともに協力し、目に見えないネット環境まで含めて、人権意識や多様な考え方の尊重など、その役割を果たしていかなければならないのだと思います。

*田沼家は、後に意次の四男意正が若年寄になり、旧領相良藩への復帰を果たすなど幕府内の地位を回復。子孫は意次の名誉回復に現在も努めています。

力走!校内持久走大会

12月4日（木）は、校内持久走大会がありました。

今年度からコースを変更し、我夢と一の段の間の田んぼを周回するコースになりました。

子供たちはこれまで、朝の体力アップの時間や体育の時間を使い、自分の目標タイムの達成に向けて練習を重ねてきました。

自分の目標記録を達成できた子供、そうでなかった子供、それぞれかと思いますが、この持久走大会に向けての取組から得たことを、今後の生活に活かしてほしいと思います。

皆様の温かい御声援、ありがとうございました。



社会科見学及び陸上記録会

11月26日（水）に市の小学生陸上記録会が行われました。5・6年生が甕島の他の小学校のみんなと参加して、100m体験走やハードル走、走り高跳びなどに挑戦しました。

6年の齊藤欽南さんと、5年の山下小稲さんが市で2位に入賞しました。



空き瓶回収、ありがとうございました!

12月13日（土）は、PTAの空き瓶回収がありました。当日は、雨の中PTA会員の皆様、地域の方々、多くの皆様方の御協力で、たくさんの瓶を集めることができました。収益金額は、後日、分かり次第お知らせし、有意義に活用させていただきます。

御協力、ありがとうございました。

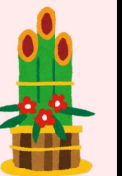


また、保護者の皆様は同日に行われました、PTA及び学校保健委員会にも参加いただきありがとうございました。

保健師の小田先生をお招きして生活習慣の改善と生活習慣病について貴重なお話をいただきました。また、特に朝ご飯を中心とした食事の重要性についても御教示いただき大変参考になりました。令和8年も引き続き御協力よろしくお願ひします。

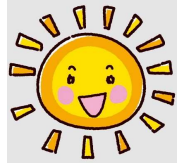
1月行事

- 5日（月） 仕事はじめ
- 6日（火） 鬼火焚き
- 8日（木） 始業式・大掃除
- 11日（日） 消防出初式
- 12日（月） 成人の日
- 13日（火） ～14日（水）
鹿児島学力・学習状況調査（5年）
- 14日（水） 委員会活動
- 16日（金） かのこゆり号来校
- 20日（火） 授業参観（なわとび大会）
- 21日（水） クラブ活動
- 27日（火） 小学校体験入学・入学説明会
- 28日（水） ～30日（金）
先生と語ろう週間
- 29日（木） 中学校入学説明会



今月の付録 里ことば の ひみつ

～ 里村の暮らしをひもとく ～ (最終回)



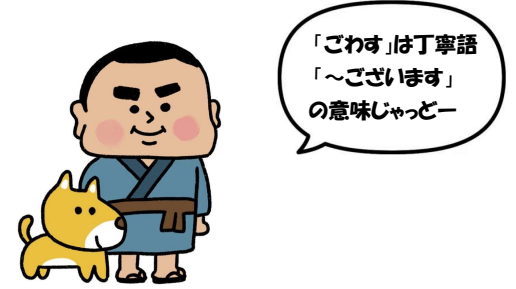
いよいよ最終回となりました。今回は、里ことばの伝統的多様性？特に上下関係による使い分けに注目してみました。

道で ^おふてえ会おたと一きゃあ、ふつう 目下んもんが ^{ひよい}先い挨拶し申すとよ。「よか日和 やい申すなあ」「冷よおない申いたなあ」
「雨ん 降いだし申いたが やんと降いだし申いたが やんと降り申おさんよおかい」 ちゅうふうになあ。

道で人に合った時は、ふつう、目下の者が、先に挨拶するのです。「いい天気ですね」「寒くなりましたねえ」「雨が降り出しましたが、たくさん降りませんか」というふうになあ。

では、立場によりどのように変化するのか見てみましょう。

- | | | |
|--|-------|---------------------------------------|
| 起きたん、キューは よか日和やいたいどあ。 | (下・同) | 起きたか、きょうはいい天気だよ。 |
| 起きやったん、キューは よか日和やいたいどあ。 | (やや上) | 起きられたか、きょうはいい天気だよ。 |
| 起きやい申いたん、キューは よか日和やい申すたいどあ。 | (上) | 起きられましたか、きょうはいい天気なんですよ。 |
| けさ、めっきゃい申おさん、起きやい申いたん、キューは よか日和やい申すどあ。 | (敬) | 今朝も今お目にかかります、お起きになられましたか、きょうはいい天気ですよ。 |



次の例です。

- | | | |
|-----------------------|-------|------------------------|
| もう おすかでえ 寝んか。 | (下・同) | もう 遅いから 寝ろ。 |
| もう おすかでえ 寝やれば。 | (やや上) | もう 遅いから 寝られたら。 |
| もう おすか申すでえ 寝やい申せば。 | (上) | もう 遅いですから 寝られましたら。 |
| もう おすか申すでえ やすんみゃい申せば。 | (敬) | もう 遅いですから おやすみなさいましたら。 |

【鹿児島弁の丁寧語・敬語の例】		
敬	(してください)	(ありがとうございます)
	シヤッタモンセ	アイガトサゲモシタ
	シヤンセ	アイガトゴワス
	シヤイ	
	セエ	アイガト
下・同	(しろ)	(ありがとう)



この細かな言葉遣い、方言には敬語が少ないところが多いのですが、この細かな変化はすごい！ ^{じかた}地方の言葉（鹿児島弁）も敬語表現がありますがここまでではない気がします。

里ことばを話されているみなさんの会話を聞いていると、今でも、諸先輩方に対しては明らかに表現が変わると感じます。この表現の多様性を民俗学者の柳田國男氏が注目し、お弟子さんを派遣し研究されたというのわかる気がします。

甌島の中でも、特に里には古くからの伝統芸能や文化が、今でも多く息づいています。それは、古い伝統を大切にする里の人々の気質が、里ことばに象徴されつつ継承されてきたように感じます。

現代の小中学生が、里ことばを使う機会は少ないと思いますが、島立ち後、里ことばの持つ音律を聞くと、きっと懐かしく思うのだと思います。

今回、日笠山正治さんが編纂された「西海の甌島、里村のことばと暮らし」から文章を引用させていただきました。こういう本が編纂されていること自体が、里村の財産だと感じました。

次の例文で、このシリーズを閉じたいと思います。これまでの例文は、なんとなく意味わかる？ かな？ という内容でしたが、次、初めて聞けば解説?? 私には絶対無理。と思いました！

- | | | |
|-----------------------------|-------|--------------------------|
| だーち、また アイチャーあ やろあい。 | (下・同) | さようなら、また あした 会おうよ。 |
| だーつーやれ、また アイチャーあ やい申おぞあい。 | (やや上) | さようなら、また あした 会いましょう。 |
| だーつーやい申せ、また アイチャーあ やい申おぞあい。 | (上・敬) | さようなら、また あした お目にかかりましょう。 |

(おしまい)

